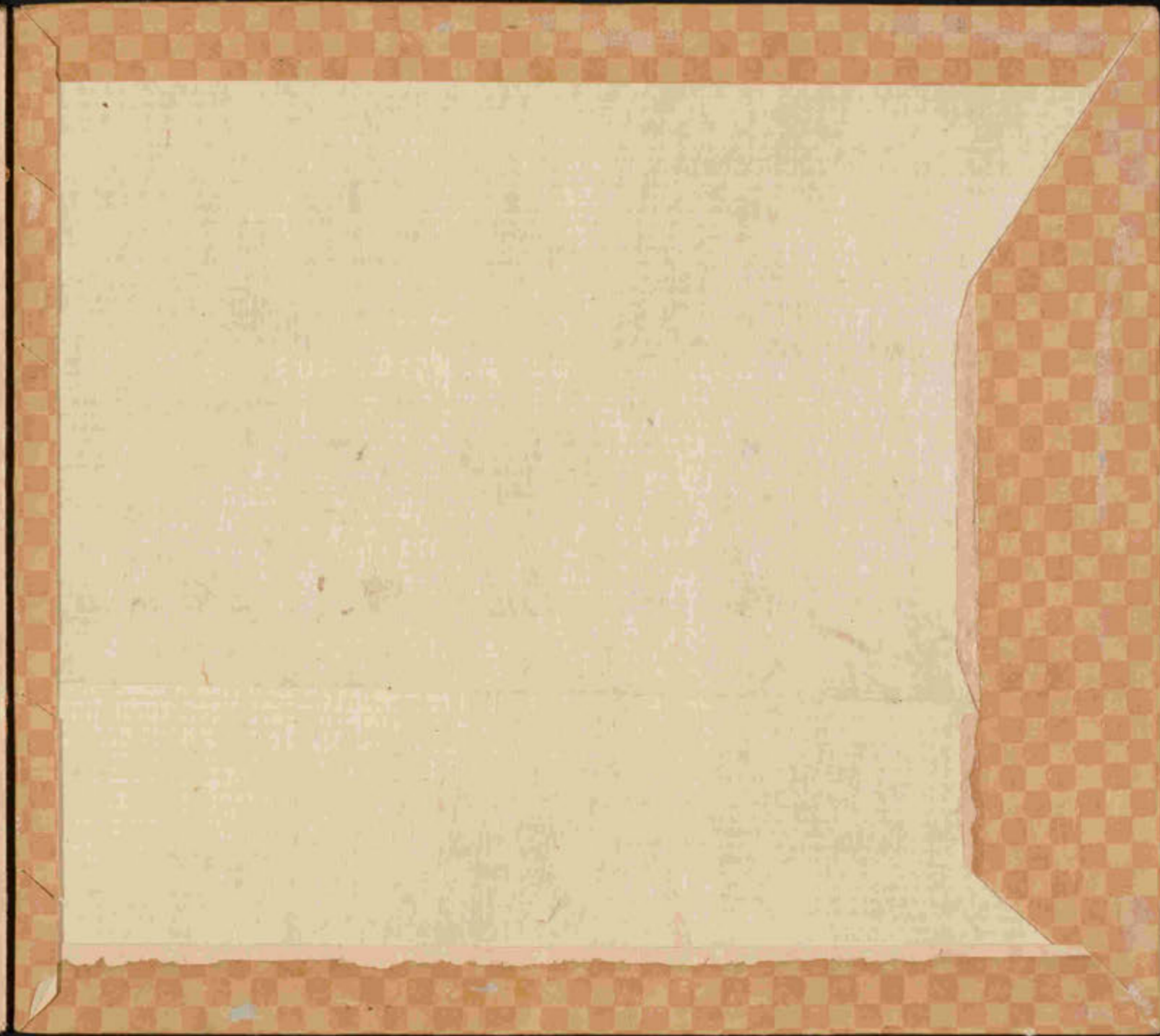
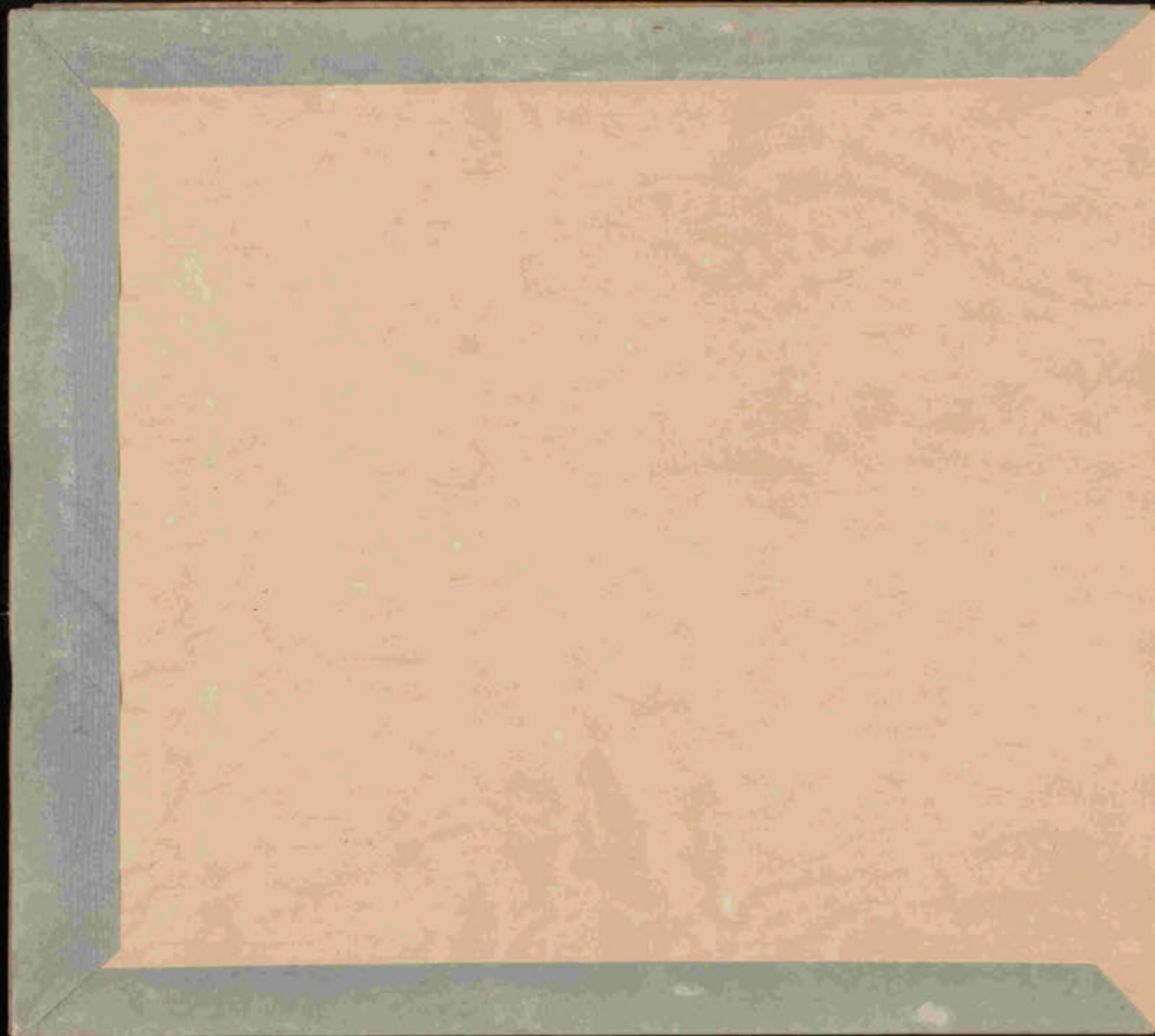


古今集序

第七註



古今和歌集序註第七

今れ世中あはれし人なり



よきことありあはれし人なり

よきことありあはれし人なり

よきことありあはれし人なり

よきことありあはれし人なり

よきことありあはれし人なり

よきことありあはれし人なり

よきことありあはれし人なり

よきことありあはれし人なり



らして美の申傍りし事
わらりやうしる風
しるひて實かき事の手
ハ事証ふんとなはれ先それ
正しくして能く理をかりし
らるぬよある序を見上る
多存古質之語、未年月之既
後有教誡之端
多し事れ通るよふた
はるしるもたれん

事
承國の風俗よ一國の俗の民
くらむ事よ一國の俗の民
らるしるもたれん
國の言の傳
政と風かよ
地國の道
らり
らり
らり

人をも少く詞をえりて思を
歌とらぬ。真名序之洛詞を
之^{ユキ}真^モ艶^{ウツクシ}流^{リウ}泉^{セン}如^ニ涌^ユる^ニ實^ニ當^ニ流^ニ
之花^ハ孤^コ業^ノと^ハい^ハん^ヤ妙^ニ此^ニを
奇^ハと^ハれ^ルも^ハあ^らわ^らぬ^ハの^ハま^はら^しめ
と^ハい^ハ花^ハと^ハ又^ハら^ハも^ハこ^ハら^ハり
申^ス美^シと^ハり^テ花^ハ月^ハ真^ニ絶^ニて
ま^もと^ハ偽^ハれ^ル詞^ハを^ハい^ハえ^ルて
か^らん^と歌^ハい^ハん^ハ就^ニ中^ニの^ハ中^ニを
そ^の中^ニに^ハあ^らわ^せて^ハ詞^ハを^ハ今^ハも^ハ

う^しの^ハぬ^ハも^ハ古^ハを^ハり^ハひ^ハあ^らわ^せり
詞^ハ何^レと^ハも^ハあ^らわ^せる^ハ中^ニと^ハあ
て^ハも^ハ花^ハの^ハひ^ハも^ハ中^ニの^ハ中^ニと
何^レと^ハた^ハら^ハん^ハ中^ニの^ハ中^ニと
い^ハん^ハ中^ニの^ハ物^ハの^ハ針^ハと^ハ思^ハふ^ハ
と^ハあ^らん^ハと^ハ古^ハの^ハ心^ハ詞^ハを^ハり^ハて
風^ハ情^ハを^ハ歌^ハと^ハい^ハふ^ハ花^ハと^ハい^ハふ
中^ニの^ハ中^ニの^ハ中^ニの^ハ中^ニと
あ^らわ^せる^ハ中^ニの^ハ中^ニの^ハ中^ニと
何^レと^ハあ^らわ^せる^ハ中^ニの^ハ中^ニの^ハ中^ニと

まじりていづれもあはれ
まゝ序之語道人其義身神
明せしはよ人より早き人
しあひもん中ずし平意よ
わいもつたぬこのむけり
實のこゝろをいふのこゝろ
ついでにいふこと(一)耳目の
りたりとひて成て教誡の語よ
用ひしり中ばえや海のらり
海しりちのこゝろ

九十年のぼりえとていふ
りひのこゝろは海のらり
たにちのこゝろは海のらり
まゝ序之語道人其義身神
明せしはよ人より早き人
しあひもん中ずし平意よ
わいもつたぬこのむけり
實のこゝろをいふのこゝろ

酒カカサメニ 世ワカミ 余ナシ 我テ 身ツク 於ル 伊ハ 礼ハ 天ツク 行ル 依ル 羽ハ
是乃集集云

和歌

後で世を治ふる人をして修め
 かしむるを以て其の道にして
 して人業卒の卒に於て
 陸奥を治むるは其の道なり
 傳へて世を治むるは其の道
 たりしを以て其の道なり
 後を以て治むるは其の道なり
 して人業卒の卒に於て
 陸奥を治むるは其の道なり
 傳へて世を治むるは其の道
 たりしを以て其の道なり
 後を以て治むるは其の道なり
 して人業卒の卒に於て
 陸奥を治むるは其の道なり
 傳へて世を治むるは其の道

ありていづれの傍に百人の傍に
 ありていづれの傍に百人の傍に

後を以て治むるは其の道なり
 して人業卒の卒に於て
 陸奥を治むるは其の道なり
 傳へて世を治むるは其の道
 たりしを以て其の道なり
 後を以て治むるは其の道なり
 して人業卒の卒に於て
 陸奥を治むるは其の道なり
 傳へて世を治むるは其の道

昔は〜
直りかたは〜
あ〜
思ふは〜
〜

高川〜
じりり〜
昔は〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜
〜

〜
大正聖年植民地中後三行百集
い〜
〜
〜
〜
〜

りまのりばあふとてを
かきかきしよんをてま
らるるらりしん

しんしんしんしんしんしん
りて人の賢愚はあつしんしん
えや賢愚はあつしんしんしん
誠の考をさしめぬらりあふ
世道しんしんしんしんしん

同く平のねえ評流のたふし
あからるし教誠の考ふのしん

漢家れ詩の和國の詩れ
風月詩えうて教誠をしんし
せんしんしんしんしん

答云君の天下れよめざるは
一うて固れ益ありしんしん
かしんしんしんしんしん
時徒不言しんしんしんしん
しんしんしんしんしんしん
又益益はるしんしんしん
益益の賢者不復作詩しん

又之歟。復者文集賞善罰惡也。之
之後。去復。霸君不從。賞罰。是天
下之潤。記絶。炎。縱使作詩。是。無
益。取。賢者不復作詩。是。延。其。心
の家。朝。重。也。固。れた。の。氏。の。為。益。か
らん。中。氏。の。撰。を。を。了。く。し。ん。ん
美。れ。中。の。付。て。人。の。心。を。知。合。ん。り
考。る。地。道。の。よ。き。ん。ん。り。た。り。た。り。是
又。詩。の。徳。を。か。の。解。中。に。し。り。の。以
か。し。す。り。取。る。益。を。し。時。の。賢。者。詩
を。ば。く。く。あ。と。く。ん。

文集之俾詩賦合炳戒諷諭者雖
賢則雖錦標而將災之碑誅百慮
美悅詞者雖等雖麗禁而絶
之。教誡。の。考。し。え。の。は。わ。と
や。後。の。風。月。の。の。り。て。あ。り。ん。の
詩。の。道。の。か。し。り。つ。つ。時。の。事。也
の。又。文集。之。秘。義。の。秘。釋。生。於
既。及。官。數。の。者。也。洛。詩。麗。薩。の。生
於。又。及。復。文。者。也。又。貞。觀。政。要

第二之任賢為虞世南行操
取之朕近嘗戲作一詩頗涉
浮艷世南進表諫曰階下之臣作
之地作雖又躰非雅正之所好
下必隨之一行恐致風靡輕
薄ハカシラ成俗非為國之利賜令繼和
敢不仰而令之後更百斯文
繼以死請不奉詔具報誠若此以
朕用喜焉ト詩已尚竊去スル傳フ
をいひしやさし乎しりし

於真名席之大庭皆以艷為宴
不知詩之趣也故今世猶有
席也又此の家。望也久
其れわしつりて汝のりもは
花ハナとていほのちとていほ
わしと成りつりてさるのち
れやうりてらちとてやうり
とほさるんつりてさるやと
わしをさるつりてらんわし
めんの家とて難なるも南家

の事なりと云ふは、
いひて、いふ事か、
まゝに、
まゝに、

まゝに、

まゝに、

まゝに、

北条の事なりと云ふは、
まゝに、

まゝに、

まゝに、

まゝに、

まゝに、

まゝに、

まゝに、

まゝに、

まゝに、

まゝに、

まゝに、

あゝ〜〜〜
傳之及らる大唐の皇太子
宣れ角らるる花舞〜
破一吉野の〜
あゝ〜
仁流秋は例に外流と云ふ對し
て惠筑前守の隆なりとも
し〜
〜大唐の皇太子

泰山東 衡山南 花山西 恒山北 嵩山中

傳云筑前守の隆なりとも
わ〜
筑前守の隆なりとも

あゝ〜
〜

〜

山

〜

〜

〜

清くも下東に王らん
聲は〜とひて常人は
よん〜とひて常人は
あそのりり〜ぬるあふり
う〜とひて常人は
〜とひて常人は
わ〜とひて常人は
〜とひて常人は
〜とひて常人は
〜とひて常人は

〜とひて常人は
〜とひて常人は
〜とひて常人は
〜とひて常人は
〜とひて常人は
〜とひて常人は
〜とひて常人は
〜とひて常人は

〜とひて常人は
〜とひて常人は
〜とひて常人は
〜とひて常人は
〜とひて常人は
〜とひて常人は
〜とひて常人は
〜とひて常人は

危ふふそほはあゝあゝ

ちやくり危ふたねのむらへ

いふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふ

わふふふふふふふふ

ふふふふふふふふ

高砂とはこの地も伊勢諸伊勢

母尊れ清時朝のとも夜ふ

わふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふ

の御まかりあゝあゝあゝ

ふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふ

たつたつたつたつたつ

Muramatsu Muramatsu

ふふふふふふふふふ

位者明神あゝあゝあゝ

ふふふふふふふふふ

明神あゝあゝあゝあゝ

あはせて二人男教ふして一人は
按比國生田部麻呂側はけん
のらちまよふくしあつからひり
今一人は武國といふ懐はく
しおつたらしひる後よじ書こ
人の男はしうひていふこをた
はひてあひわつくは一人は
男あはつうくは家そしあ
わひよこやそは家そしあ
しうんふちあふとあひひり

し二人の懐はくしてあひひりも
あひ女はふりあひあは
あ男はあひあふといふと云
らまびやそ俗よそんて男は
なりあ女は神とあてし時と開戸
院は開戸院明神といふはひり
南流。ははわよしゆり貞観元
年乙卯移り依る八懐は男は
同乙卯未始置及社別南信安
任具職といふより王代記世續れ

わがしめしむるはなほかみ
そとくえぞすたしとれや

女帝花と書て女よたしめる事ハ
大君は漢ハハ支那に安んじ
しる物也いしまはは何文に
信女とらひきり往の娘と物なりも
つは娘死なりしはも墓をたし
とけしひて送る事なりわが秋の
つ言はぬは信女娘の墓のあり
かばんやといふ娘のしるの墓を

てきそつとんていしんは
よはわしとてこ女帝花
つしり一夜の寝よしてそ花
しもの花を家娘うとんは
ハ女つららの花と書て女帝花と
後や女のまばいしとていしん
のまばいしと後よしとて女
帝花は女のまばいしとていしん

人まの物も花のまばいしとていしんは
母葉のつららの花とていしん

世々の朝は他家の従へりて
中々三月の初の日正月の
ゆゑありたるは口のもつら
りたるはしてまじき事
あはれし事ありて
白ひたる神のまじき事

南流はまじき事ありて
正月も二月も三月も
九十日ある朝は
人々のつゝの事ありて

ふかーは九十日か
とてたうあ時と
月の日ありて
今も
朝は

あはれし事ありて
わは三月の後の
とるわの朝は
し正月はありて
月九十日朝は

美奈もは書して秋夕地家もは

九月をふる葉はあを後るいづれなり

過らへる事もゆんお葉は

勢とく向て秋のつらさ

南家もは九月をふるいづれなり

秋の夕はぬ葉はあをり時をわ

かしらまき

あはれもの物そはしり

秋のつらさ

八月はく月とて則葉はあをり

再集の月もあざむし玉も丸
月もあざむし玉も丸

わの年毎のまんじりまんじり
はなもあざむし玉も丸

海鏡地もあざむし玉も丸
時もあざむし玉も丸
しんじりあざむし玉も丸
後のしんじりあざむし玉も丸
老のあざむし玉も丸
すゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

鳥羽まはる日記のなごまり
老のあざむし玉も丸

草のあざむし玉も丸
水はあざむし玉も丸
家方もあざむし玉も丸
あざむし玉も丸
あざむし玉も丸

あざむし玉も丸
あざむし玉も丸

あざむし玉も丸

いのふらふらとていふは

~~~~~

ひらへんていふは

~~~~~

朝倉とていふは

~~~~~

毛那朝倉とていふは

~~~~~

山の中たまはるる

~~~~~

を安くわくま

~~~~~

かへんていふは

~~~~~

~~~~~

朝くらま

~~~~~

も

~~~~~

~~~~~

~~~~~

凡殿より家出する事せず後
吉野山に棲りて及も皇統御よ
りてお國へ移りて一たび時
段創りて皇母を御位に
お召しおせ給もやと朝倉御
とりひらりて朝倉の御
より御前へ朝倉より
わが心はほろほろし
らとておしやとて
おのれはとて

世の家はわが心よ
濁りて後ありて
わが心よとて後怨の
世の常深夜取ら
ほりて女はとて
通うらりり女は
越ん時をとりて
こととてとて
あくととととと
りてととととと

いづれもよむるは世凡のさゆた
いづれもよむるは世凡のさゆた
鳴草やとや麻の帯は嘆物に
うゑやとや麻の帯は嘆物に

曉露鹿鳴花始發

万般攀折一時情

曉のうらさけのひのさけ

地刺右芥のうらさ

曉もも鳴れぬさけのひのさけ

さけのひのさけのひのさけ

もえのうらさけのひのさけ
れりいづれもよむるは世凡のさゆた
男のひのさけのひのさけ
て物にひのさけのひのさけ
まていづれもよむるは世凡のさゆた
らもいづれもよむるは世凡のさゆた
世にれりいづれもよむるは世凡のさゆた
とやとや明日百夜よむるは世凡のさゆた
け男の肥体も死にりて外より
いづれもよむるは世凡のさゆた

時あや秋のまじりてん

一巻之異竹をくしとて是異列の

色葉ヒトカサよの果賤し言てくしとて

後一とらる異國のり斗あひ

くとははほみ異コト葉しとて

き節のまひとては中ははらり

世詞の古きとて

〜

〜

〜

流しとてはわたりてはらり

〜

〜

〜

今もははははははははははは

〜

〜

〜

〜

〜

中意らありていざこざなりて
 んに馬のいさぎに難けりて
 何れ傳しけり是今の家方哉
 何るたよりん事ハ伊勢の辰
 中勢の家ちん後ハ井の
 るいさぎにありていざこざなり
 海に傳ふる傳ふはあり
 わしとありて中はありていざこざなり
 ありとありていざこざなり
 一一首の伝ふはありていざこざなり

大なるありていざこざなり
 從らずていざこざなり
 下をみるゝんは氣あるも後
 せんはありていざこざなり
 らしとありていざこざなり
 一いさぎにて陰氣ありていざこざなり
 らりちんとありていざこざなり
 下はありていざこざなり
 傳ふるありていざこざなり
 ありとありていざこざなり
 中

あつひのほけりかあひのいふよ
ねしつゝほを理へけたりかあひ
今いふとほけりゆりもや位屏凡
障子のけり名あひんとてこれ記
よひつゝほを理へけたりかあひ
うていふとほけりゆりもや位屏
詞いふ解よかあひとほけりゆり
しつゝほを理へけたりかあひ
詞いふ解よかあひとほけりゆり
うりしつゝほを理へけたりかあひ

かあひ

ほを理へけたりかあひとほけりゆり
しつゝほを理へけたりかあひ
詞いふ解よかあひとほけりゆり
うりしつゝほを理へけたりかあひ
今いふとほけりゆりもや位屏凡
障子のけり名あひんとてこれ記
よひつゝほを理へけたりかあひ
うていふとほけりゆりもや位屏
詞いふ解よかあひとほけりゆり
しつゝほを理へけたりかあひ
今いふとほけりゆりもや位屏凡
障子のけり名あひんとてこれ記
よひつゝほを理へけたりかあひ
うていふとほけりゆりもや位屏
詞いふ解よかあひとほけりゆり
うりしつゝほを理へけたりかあひ

いかにあはれなるか

はの国りかゝり傷むはらぬ

しはあかきあはれ

かきいづれかきかきかき

久しき傷のあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

人へ母の海をわらん思へたをんと
えては女はさくしてははははの
オよ入てはのそりりり母の
をはあのおりりりりりりりり
きりりりりりりりりりりりり
らりりりりりりりりりりりり
申はししとひりりりりりりり
物といひりりりりりりりりり
とそりりりりりりりりりりり

物にちあはれ橋あり

いそとあつたははははははは
とそりりりりりりりりりりり
らりりりりりりりりりりりり
あははは男送るさんて馬
オ家て送るらりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりり
雄子に射死てらりりりりりり
よりのりりりり

物にちあはれ橋あり

あゝいふことなしに
と後りなりけし世男すて物
くまひねらりてしあひ
いふやいふやいふやいふ
やらの雄もいふやいふ
しつひてあそぶる長柄橋と
え申は橋は國川をえり
の十^二里^のの海にて後鳥羽湊
より海口のおりてし海
の入して三里は橋は

あゝいふことなしに
またの世橋はらんとして
風くさるしふ橋の明神を
奇護神を祭るといふ
はらりけしあもてし
あゝいふことなしに
あゝいふことなしに
あゝいふことなしに
あゝいふことなしに
あゝいふことなしに
あゝいふことなしに

難云後邊漆より吹田に亦ら
していりて三まふらふら
らふらふらて橋と云は後定の
大後橋の山城國也何とて橋は
國の難はよわの橋ふらふら
伊勢の筆もも難所らふら
れ橋と作らりと後りは大海
橋ふらふ山城も流つと橋と
しめらふらふらふら今
の難とて後橋ふら山城國也

造てとて今の新橋ら
長柄の橋もけららりとよの
今の難と後伊勢の今とね
りてそのと後ふら今首
のしとふらふらふら
後定ら大橋の山城國也難は
ふらふらの橋も伊と後と
ぬら長柄の橋のふらと他家
はふらふらふらふら
山

答ふ世類いんれりいんれりいんれり
申ハ皆さるるを御し今れあり
取ハ他事なりとてしししししし
よしてふりしししししししししし
を云申し尋常れ法なりとて
まひりしししししししししし
國よりしししししししししし
大和國の海にありしししししし
神のちしししししししししし
とてしししししししししし

朝倉ハ筑前國と毛郡はしししし
しししししししししししししし
しししししししししししししし
大和國ハ吉野ハ舞うりしししし
朝倉ハのさししししししししし
みししししししししししししし
しししししししししししししし
をししししししししししししし
りししししししししししししし
把りた大佐仲平とれしししし

痛ういふ心めん幸あはれ

くらわくもいなさくは

むらさきのむらさき

むらさきのむらさきむらさき

むらさきのむらさきむらさき

むらさきのむらさきむらさき

むらさきのむらさきむらさき

むらさきのむらさきむらさき

むらさきのむらさきむらさき

むらさきのむらさきむらさき

はなはなむらさきむらさき

むらさきのむらさきむらさき

むらさきのむらさきむらさき

むらさきのむらさきむらさき

むらさきのむらさきむらさき

むらさきのむらさきむらさき

むらさきのむらさきむらさき

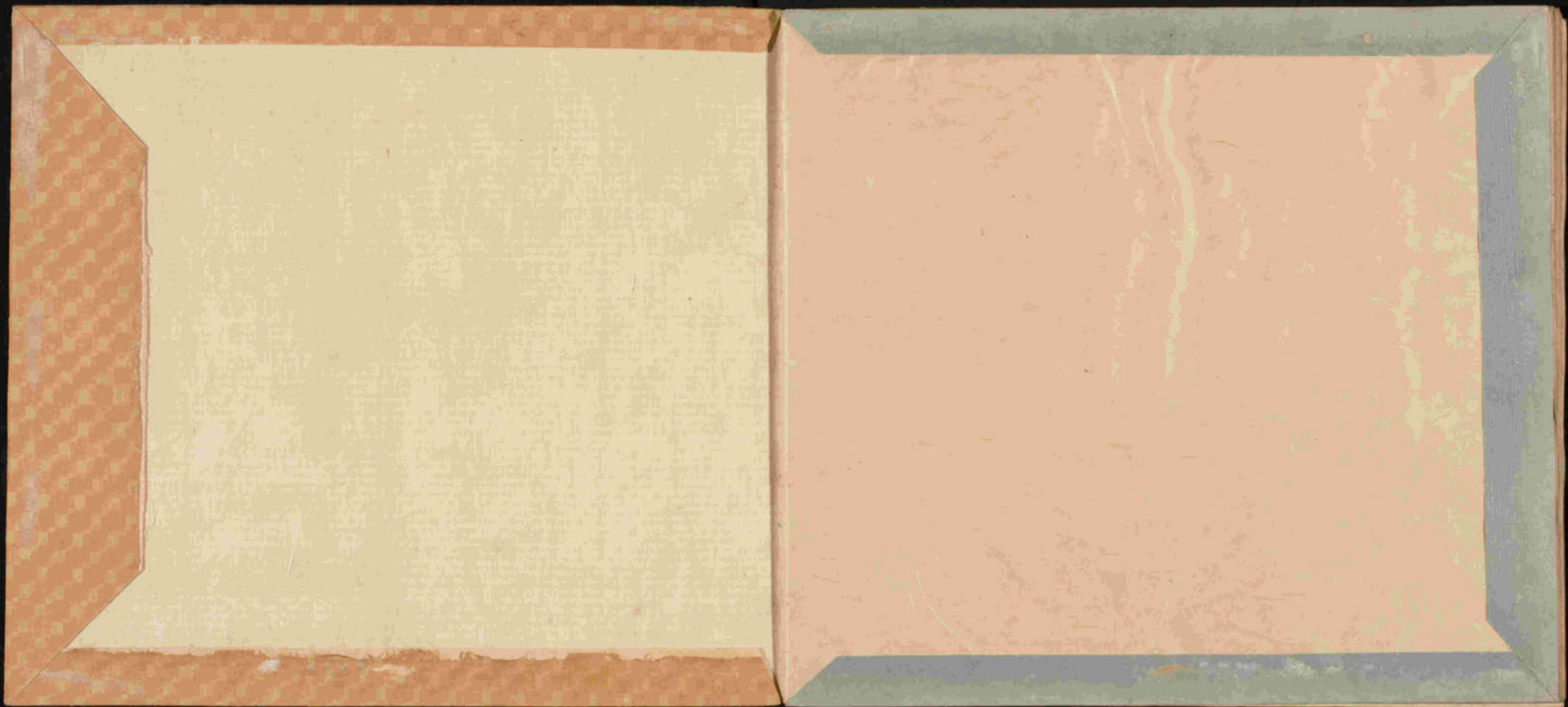
むらさきのむらさきむらさき

むらさきのむらさきむらさき

むらさきのむらさきむらさき



The back cover of the book is a light beige or cream color. It features a faint, repeating pattern of the same floral and bamboo motifs seen on the front cover, but in a much lighter, less distinct shade. The pattern is centered and covers most of the surface area. The book shows signs of age, with some discoloration and wear, particularly along the edges and the spine.



110X
341
10